

はくさんさん

この地に成り切る 安心、豊かさ

第64号 平成20年正月
伊豆市法住寺 瓜島信行 発行



早朝、本堂の板戸を開けると、薄つすらと霜に濡れた境内は静寂、清浄。ついこの間まで、毎朝落ち葉掃きという日々だったが、樹の芽は新春に相應しく芽をわずかに出し始めている。この凜とした「気」は心地よく安心(あんじん)を覚える。

*
私が以前、勤めていた中学校では、晩秋になると始業前に自主的に大勢の生徒が出て、登校路の落ち葉掃きをした。教師も一

緒になって掃くのだが、ある朝、掃いてもすぐ葉は落ちるし、汚れたらやればいいじゃないかというような事を、校長先生に言った。すると「掃く事が教育だ」と。掃くことは生徒の気持ちを浄化する、いろいろの教育効果を考えていたのだろう。味わい深く実践的な立派な校長先生だった。

*
今、毎朝境内を掃きながらその言葉を思い出していた。庭をきれいにする為だけに、単なる労働、苦役。確かに、きれいにすることが目的なのだが、それだけでない。「掃く事が修行だ」、只管(ひたすら)掃けばよいのだ。

そんなふうにして毎朝掃いていると、だんだん「この地に成り切る」という思いに到り、安心と同時に豊かさを感じるのだった。このひと掃き、ひと掃きで、私はこの地に成り切っていく。この地に根を張り、落ち葉の様にこの地に成っていく。それが最も安心することであり豊かということであり何よりも幸せである、と。

*
事故にあつたり、長患いしたり、歳をとつたり、いろいろな理由で社会的、経済的な価値を作り出せなくなり、日々生きていくだけと思ひ込むようになったとしても、

それはその地に成り切っていく意義あることとであり、価値あることであろう。

野菜づくりに励む方が、「買った方が安い」と言つては、立派な野菜をご供養して下さる。一鍬、一鍬は経済的な価値は少ないかもしれないが、一鍬ごとに土地に成り切っていく、それは安心であり何よりも豊かなことであると思う。

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

ころんだ子供が泣いています。「あー、痛いねエ、本当に痛いねエ」と この手に抱いてさすつてやると、痛みを引き受けてもらった様に思うのか、暫くして泣き止みます。又 ある時は「痛くない、痛くない、強いものね。痛いの、痛いの」とんでけエ、あーっ、とんでっちやっつた！」と言うと、子供は泣きながらも笑います。

*
私たち大人も辛い時、悲しい時、励ましの言葉をかけてもらって、力づけてもらって元気になることがあり、またある時は、自分の痛みにしつと寄り添ってもらって、共に苦しみ、共に

悲しみ、共に祈ってもらって救われる時もあることに気付きます。心に手を素直な気持ちになれた時に、人の気持ちのありがたさに気付き感謝することができると思えます

謹賀新年

法住寺護持会

〔総代、護持会長〕山下 一

〔総代、副会長〕伊東修 〔総代〕佐藤雄一

〔世話人〕山下要、三田泰男、飯田忠、

飯田安久、室野則義、小塚昭男、森野博、

小塚順一、杉山勲、山田隆二

中伊豆立正大題目講(当山)

〔副会長〕林やす子

〔顧問〕井本甲男、小塚勝

〔世話人〕伊東繁春、井本正雄、飯田常弘、

井本まつ、伊東はつ江、三田五月、山下

しづか、伊東すゑ子、伊東ちゑ子、三田

幸子、山崎まち、伊東通子、鈴木紀一、

滑川正勝、滑川美奈江、森野一夫、

山下清、小塚正司、林 秀、小塚孝夫、

小塚貞夫、小塚康清、山本宏衛、山下

ふく、山下千代子、小塚愛子、土屋賢吾、

杉山はまゑ、山本義富

す。また、そういう自分になれた時、はじめて自然に「人の気持ちに寄り添う」ことができるのだと思えてなりません。今年も心を柔軟に素直に、皆さまと共に手を合わせて過ごして参りたく思います。よろしくお願いいたします。

洋明上人帰山式、二月十四日

洋明上人が一百日の修行を成し遂げお寺に帰ってくる式、成満奉告式(帰山式)を、二月十四日(木)に執り行います。

これから護持会役員会(一月六日)、組内寺院会議(一月十六日)、一月お見舞い団参(一月十二日)、お迎え団参(二月十日)等を経て当日を迎える事になります。詳しいことは役員さんを通してお知らせします。また遠方の方は手紙でお知らせ致しますので、今後ともご協力の程、お願い致します。

洋明上人荒行団参



三十五日の浄行が終わり、面会が許されて始めての日曜日十二月九日、中山・法華経寺の参道を歩く足取りも早くなります。荒行堂に着いて間もなく、いよいよ洋明上人と面会です。多くの方が「これが洋明さん?」という感じでした。顔が変わっているように見えました、痩せたのでしょうか。その顔もじっと見ることはできず、潰れ切った声をふり絞り「お詣り、ご苦労さまでございます。辛いこともあります、皆様のお力で何とか頑張っています。」それだけ言うのが精一杯の様子でした。

気を張って修行を続けているお姿に直にお会いすることが出来た喜びと切なさで涙。何も言葉ができません。ひたすら無事を願ひ、成満、帰山してくれることを祈るの

でした。特別加持（祈祷）を受け、こうして洋明さんが頑張ってるんだからと、何か清々しい元気を頂いたのです。

その後、本山真間山弘法寺にお詣り。昼食弁当の手配違いがあり、急に昼食会場をお願いし、他にも大変お世話になりました。いろいろな我が儘が言えたのも、石野貫首さんと私は大学の友人で、昌子寺庭は貫首夫人に教わる事多く、仲良くしてもらっているからでした。

貫首さま自ら御開帳して下さい、御本尊さまを身にびったりつけていきましようという法話を頂きました。今まで遠くに拝む御本尊さまでしたが、グツと近くにしている、そしてお題目に成り切ろうという思い・夢を持つことができました。



真間山は、直にバスが入れませんが、十分近くの帰道を貫首奥さまが送って頂いたことは、貫首さまの法話と合わせて感激でした。心に残る善い

お詣りをさせていただきまして、誠にありがとうございました。

総代三田順一様逝去

平成十六年より総代をお勤め頂いてきた三田順一様が急逝されました。それ以前、平成八年より十六年までは世話人と、裏方を厭わず、気配りし大変活躍して頂きました。残念でなりません。心よりのご冥福をお祈りし、ご回向申し上げます。

「陽山院法音日順居士霊位」座法蓮華華成等正覚 合掌。

トピックス

(一) むくげ植樹

一昨年の年末、昨年春の作業で、第一墓地北斜面樹木を伐採してもらいましたが、その後「むくげ」を植樹してもらいました。今回は清水②の皆さんが境内整備作業して下さいました。総代の佐藤雄一さんが約二十本のむくげの苗を持ってきて下さり、合計三十本を植樹、来年の夏の開花が楽し

みです。また念願の第二駐車場のライン引き、本堂裏の草刈りと、整備されました。何時も参加してくださる十二日講、蓮華の会の皆さんは境内清掃。落ち葉一つ無く程清いになった境内は見事。感動を覚えしました。皆さん、ありがとうございました。

(二) 大太鼓、張替え

毎朝のお題目、お講や法事、諸行事で続き続けている大太鼓に穴があいてしまいました。暫くそのまま使っていたのですが、山下一護持会長が張り替えて下さいました。浅草の宮本卯之助という日本で最も大きな太鼓屋さんに直接取りに来てもらい、また納めてもらいました。出来上がった太鼓は、最初は張りが強いので金属音の様な高い音でしたが、徐々に皮が馴染んできています。

(三) 伊豆連合大題目講

このお講は伊豆市、伊豆の国市の日蓮宗有志寺院で作っており、年一回、お題目講大会を開いています。今回、諸般の事情といたことで中伊豆地区の多くの寺院が退会しました。当山としては、このお講を先代

智雄上人が長年築いてきたこともあり、檀信徒の皆さんのお声を聞きながら、今後も続けていく方針です。今年の大会は当山が会場となりますので、皆さまご参加ください。



洋明さんのおはなし

十二月中旬、洋明さんから手紙が届きました。入行してから最初の三十五日間は、出すことも受け取る事も一切できませんでしたが、やっと手紙のやり取りが限られた時間の中で出来るようになりました。法住寺様宛の封筒の表には『急いでいたので、字が読めなかったらごめんなさい』とある、

その手紙を載せて「洋明さんのおはなし」に致します。

合掌 日ごとに水の冷たさが増してきていますが、水行するたびに 体、心が清浄になつていくのを感じています。おばあちゃん、父さん、母さん、みな元気ですか？

先日は、団参面会、ありがとうございました。半分、頭がボーンとしていたので、言いたい事や伝えたい事の半分も話せず残念でしたが、皆さんの顔を拝見し、何よりももの励みになりました。



入行会の時、二週間目に熱があり、体も大変重く、水行と読経を気力で法力で体調を戻そうと、必死になつて尊神様に経をあげた時、団参で皆で祈禱を受けた時、法悦に感謝し涙が止まりませんでした。

毎日修行も、だいぶ慣れてきました。三田順一さんと桜丘の見次さんの二人は、百六十人の行僧が4夜勤の時、回向して下さいました。ありがたいことです。幸代も子供たちも元気ですが、宜しくお願ひします。また面会待っています。檀家のみなさんにも宜しく。特にお母さん、体には気をつけてください。

御志納金「十一月〜十二月」

百万円 元村 三田 学殿 尊父葬儀砌
百万円 西 杉山次広殿 尊父葬儀砌
三十万円 元村 伊東はつ江殿 夫君七七忌砌
五万円 西 佐藤久男殿 尊父五十回忌砌
◎大太鼓張替え 清水 山下 一殿
◎むくげ苗二十本 西 佐藤雄一殿

洋明上人成満、バスでお迎え

二月十日(日)午前零時出発、午前三時荒行堂着、午前六時瑞門開扉。バス代五千円。詳しくは役員さん、お寺まで。